

認証制度で生物多様性配慮米への購買意欲が変わる（日本）

■ 背景 & 目的

生物多様性の保全に関する食品ラベルには、認証の種類を含めさまざまな種類が存在している。食品ラベルにどのような認証制度を適用するかは消費者の商品への信頼に関わるため重要である。しかし、どのような認証が農産物市場において十分に機能するのか、つまり生物多様性に配慮して生産された農産物を高付加価値化し消費を促しうるのか、これまで殆ど研究が行われていない。そこで本研究では、**生物多様性に配慮して生産されたことを示すラベル（生物多様性配慮ラベル）に対する消費者の好みを、生み出しうる付加価値を貨幣単位で明らかにした。**

● 研究の問い

問い 1： 認証制度の違いによって生物多様性配慮ラベルに対する消費者の好みは異なるのか？

問い 2： 主な保全対象種（ラベル表示する種）によって生物多様性配慮ラベルに対する消費者の好みは異なるのか？

● 研究方法

米消費者 1114人を対象としたWebアンケート調査において、選択型実験を用いて食品ラベルに対する消費者の好みを分析

■ 結果

問い 1： 認証方法による消費者の支払意志額には大きな違いはない

取組に基づく認証（農法認証）： 約360円

成果に基づく認証（成果認証）： 約385円

問い 2： 魚類を対象とするラベルと鳥類を対象とするラベルでは
消費者の好みに差が見られた（魚類の方が好まれる）

交互作用： **認証方法に対する消費者の好みは
保全象徴種によって異なることが示された（右図）**

- 鳥類を対象とするラベル： **農法認証 > 成果認証**
- 魚類を対象とするラベル： **農法認証 < 成果認証**

